

LPガスCP速報(2020年6月積)

1. 6月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **350** ドル (前月比+10 ドル)

ブタン **330** ドル (前月比-10 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が歴史的な暴落から反騰するなか、LPガス需要は、不需用期と新型コロナ感染拡大により日、韓ともには振るわず、中国もPDHプラントがトラブルで停止するなど需要が低迷する一方で、サウジアラムコは原油減産に伴い6月積みLPG供給料を削減し、需給はバランス。市況は原油急反騰とサウジ供給削減でCP先物はプロパン、ブタンともに続伸、プロパン・ブタン格差は30~15 ドル どころ。極東CFRも第4週末(22日)にはプロパン325、ブタン310 ドル どころに値を上げていた。

全米プロパンは、輸出が前月中旬の過去最高から減少、需要も不需用期入りで低調、全米在庫は4週連続の増加。在庫水準は前年同期比106.2%。米モンベルビュープロパンスポット価格は原油価格に連れ高、前月比45 ドル 上げの215 ドル どころ(グラフ①)。

フレート市況は軟化。米国積み備船需要が急減し中東に向かった船舶も中東各国の減産により需要が減少、備船需給緩和感が強く月間平均では前月比25 ドル どころ下げている。

ナフサは原油価格に追随、大幅に続騰、月間平均は270 ドル どころで、前月比75 ドル の急反騰。

バンカーオイルは原油市況に追随して反騰した。シンガポールIFO380は月間平均で前月比7 ドル 高の192 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同14 ドル 上昇の273 ドル どころ、両油種の格差は81 ドル にやや拡大した。

6月CPは前年同月比プロパン80 ドル 、ブタン85 ドル 安。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン54、ブタン65ポイント下落、前年同月比ではプロパン91ポイント、ブタン86ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	57.1	54.4	41.0	34.3	54.1
CP先物指標:P	260	290	300	340	295
CP先物指標:B	230	260	280	325	303

② 原油市況等

原油市況は、4月20日にWTIがNYMEX史上初めてマイナス価格を記録する歴史的な暴落から急反騰、5月月間で16.65 ドル (88%、過去最大) 上昇の35.49 ドル で終えた。OPECプラスの970万b/dの協調減産が7月以降も延長されることが検討されるとともに、COVID-19感染拡大による世界各国の都市封鎖、移動制限措置が緩和され、経済活動再開に伴うエネルギー需要の回復、需給再均衡期待が高まった。一方、米国内原油生産量は1,300万b/d超の過去最高水準から1,140万b/dまで減少した。米石油リグ稼働数が原油暴落を受けて急減が続き、直近で前年同期比72%減の222基、2009年6月以来の低水準となっている。ただ、製油所稼働率が70%前後の低水準にとどまり、全米原油在庫は5億3,000万バレル超と過去最高水準に迫っている。メモリアルデイの連休から本格的なガソリンシーズン入り、歴史的な落ち込みを見せたガソリン需要も回復基調で製油所稼働率の上昇が見込まれる。

なお、CFTC発表の大口投機玉の買越残高は26日時点では543千枚、前月末から46千枚減少。前月の暴落を受けて、期近から期先へのロールオーバーが進む一方、米株価が原油市況反騰と世界的な経済活動再開を受けて反騰、リスク回避の動きに歯止めがかかったが、各国の金融緩和政策でコロナバブルの様相を呈している。

○5月積みアラビアン・ライト(5月1~29日までの想定)は25.90 ドル (前月比+6.98 ドル)

熱量等価AL100% プロパン212.35 $\text{ドル}/\text{トン}$ ブタン209.44 $\text{ドル}/\text{トン}$

AL比 プロパン164.82% ブタン157.56%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

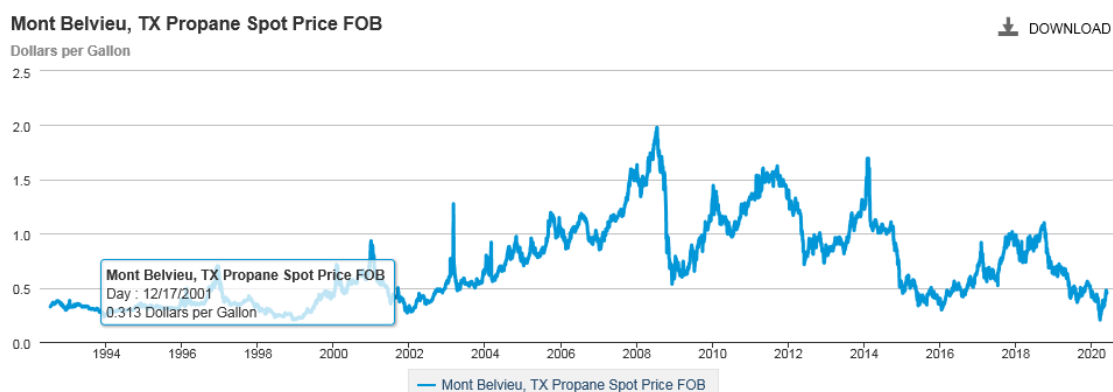
2. 2020年6月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	108.30	42,600	41,500	41,700	+5,900	+4,300	+5,300
②末日締め	108.35	37,400	36,300	36,500	+6,300	+4,700	+5,800

* T T S平均について、①が4月21日～5月20日、②5月1～29日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは3月28日までの価格を基にE I Nで試算（213ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①MB価格推移



②WT I 価格と大口投機玉買い越し残推移

